**アンケートピックアップ**

**4月17日 ライフスタイルアクセント株式会社（ファクトリエ）代表取締役社長 山田 敏夫氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

ビジネスチャンスは矛盾の中にある。という言葉から始まり、どのような矛盾があるのだろう、と考えながら、話を聞かせていただきました。周囲のファッションブランドの風潮に惑わされずにもっとも正当な方向から会社を立ち上げていった姿が本当に凄いと思いました。

また、私は「人間が唯一コントロールできるのは行動力のみ。」という言葉がとても心に響きました。毎日手紙を書くことを何日間も続けたり、2年半もの間ひとりで働き続けたりと、今の私の心の弱さだと継続することが難しいかなと考えられるものばかりでした。考え方や心の強さを含め、山田さんは本当に素晴らしい方だと思いました。ビジネスの考え方のみではなく、人生に対しても応用できるようなお話まで沢山聞くことができました。本当にありがとうございました。（経済学部　1年）

山田さんの冒頭の呼びかけで自らの服の札を初めて見た。そこにはMADE IN CHINA の文字が当たり前のように書いてあった。しかし、近所のアパレルショップで買ったものだった。日本のアパレル国産比率は３％であるとおっしゃっているのを聞いて、今日本産のものを探すことの難しさを肌で感じることができた。このことから、大変興味を持ってお話を聞くことができた。ファクトリエの方針“価値を高める”という文化は、日本という感性豊かな国だからこそできるのではないかと感じ、日本中に広まってほしいと感じた。日本でなら、そのような文化を作り上げられると思うし、私自身もそのような母国を持って誇りをもちたいと感じた。しかし、ここで講義を聞いて「なるほどー。」と思っているだけでは何も変わらない。ゆえに自らができることを今後意識して能動的に取り組みたいと思うようになった。“人間が唯一コントロールできること＝行動”をしたいと思うような素晴らしい講義をありがとうございました。（理工学部　化学生命系学科　３年）

私がこの授業にてまさに聞きたかったお話をきくことができて、本当に心の底から嬉しく思う。やっぱり思ったように、いや、想像以上に、起業した人というのは自分の強い信念と考えと想いを持って仕事をして、生きているのだなと、１つ１つの言葉や、力強い話し方から感じた。「デザイン、安さ、ブランドが大事で産地は関係ない」という社会とは真逆の考えを持って突き進む裏には、様々な工夫の裏には、「人間にしかできない感性を大切にすること」や、「愛着のもてる日本製の服に夢中にさせる」という使命を大切にしていることがあるのだと知れた。“物を大切にできる人は自分を大切にできる人、自分を大切にできる人は相手を大切にできる人”という素敵な言葉が印象に残った。他人に非効率といわれるやり方も、最高の商品をつくるためには１番の効率的な方法だと自信をもって、作り手である工場を大切にして革新的な事業をすすめていくプロセスを軽んじないで、強い信念を持って進んでいくことが自分のやりたいことを叶えるために１番重要なことだと私は感じた。仕事を私事にできるような生き方を是非できるようになりたい。（理工学部　化学生命系学科　３年）

「仕事＝私事」自分の好きなことを追求し続けていたら、地方創生や、世界・地球規模でのモノづくりにつながっていったのだと知りました。学校で環境破壊や地球の問題を習って、すぐその問題をどう解決したらいいのか自分には見合わない大きな視点で考えてしまうけど、自分にできることや自分の好きなことが、小さなことでもどう影響させることができるか自分の視点で物事を見ることができるようになりたいと思いました。普通、起業するときに、どう売ったらどう儲かるか利益ばかり求めがちだけど、モノづくりの基本の工場の価値を高めようと考えた点が素敵だと思ったし、工場の価値を変えると様々ないいことが起こるので、私も根本的に考えられるようになりたいです。（経営学部　１年）

「感性だけはAIに支配されない」という言葉が印象に残りました。現在は機械やAIに支配されつつある中で、自分はどんな仕事に就こうか悩んでいました。山田先生のこの言葉を聞いて、まさにその通りだと思ったし、「感性」は他の誰かとも一緒じゃない自分だけのものであり、それこそが仕事に就くときに大切になってくるものだと思ったからです。その他にも、「チャンスは矛盾の中にある」「リミッターを外すのは何歳からでもできる」「物を大切にできる人＝自分を大切にできる人＝他人を大切にできる人」「仕事＝私事に」など、自分を見直させる様な言葉がたくさんあって、もっと自分に向き合っていきたいと思いました。（経営学部　１年）

「仕事＝私事（24ｈ365日プライベート）」ということ。山田さんの話では常に新しいメジャーではないことを考えて、それを仕事と思っていない、それが明確に伝わってきて祖俺を目標にしていきたいです。

「インターネットに全てが記載されているわけではないから、タウンワークで工場を探して電話をかけていた」という話が当たり前なはずなのに、日頃自分が見落としていたことなので自分には全然視野が足りていないと思いました。2年半もの間、手紙を書いて顧客を確保していたという意志の強さや、行動を重んじる心に感動しました。（経営学部　1年）

「日本から世界ブランドを」この言葉というのは実現させる大きさを物語っていると思います。今まで存在していなかったものを生み出すだけでなく、それを大きくしていくことが非常に困難なものであり、日本全体を変えていくことと同義だと考えられます。たった一人から始めたことが日本中の工場に先の未来を示し、日本の活性化、地方創生に向けた行動を起こし、世界各国から支持される事業となりえたことを考えると、「実行する」という精神は日本人としての起業精神というよりも個人的な欲求なのかなと感じました。日本ブランドを作りたい、日本の工場を助けたい、などということはやりたいことを行ってきた結果だと思いました。経営者、特に起業家というものは自分がやりたかったからやっただけ、しかしそれが最も大切なことなのだと考えました。 (経営学部　1年)

起業というものは、自分がもうかりたい、自分が偉くなりたい、という名声やお金のためのことなのだなと思っていた。しかし、今回の講義でそれは違うのだということが分かった。自分のやりたいこと、自分が成し遂げたいことだけを追い求めるものなのだと知った。（それが名声やお金かもしれないが）やはり「日本のモノづくりを復活させる」などの自分の確固たる理想・目標を持ち続けることこそが一番大切なのだと感じた。逆にこれがないと、失敗を顧みず、前を向き続けながら挑戦し続けることはできないのだなと思った。今日の講義で「起業」についての考え方が大きく変わりました。（経営学部　１年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

「作り手―使い手―伝え手」の正のサイクルという概念を念頭に置きたいなと思いました。自分のやりたいことをやるだけでなく、そこに携わる人々が全てが幸せになれるような作業構造には、企業において重要なものが詰まっていると感じます。自身のの私利私欲だけでなく、周りの幸せも考える、ということを実行できる人になりたいです。(経営学部　経営学科　１年)

今日の話はアパレルでしたが、大量生産じゃなく１人１人のヒトのつながりを大切にしたり日本のモノづくりを大切にすることはどこの業界も通じるものだと思うので私も将来の仕事にこの考え方をつなげていきたいと思いました。（経営学部　経営学科　1年）

**授業スタッフの感想**

ピックアップはしなかったのですが、山田さんは自分に自信があるからファッション業界のタブーを次々に犯して素晴らしい理念のある会社を建てられたと思う、コンプレックスのある自分には無理だ、という意見を見ました。私も自身のダメな部分を多くわかっているので、気持ちはすごい理解できました。でも、コンプレックスをどうにかするのではなく、そういったコンプレックスを乗り越えてまで自分がやらなければならないこと、やりたいことを見つけることのほうを優先していかなければならないな、と参考になりました。次回の和田さんは、横国出身なので尚更興味があります。楽しみです。

「ビジネスチャンスは矛盾の中にある」という言葉が最も印象に残った。矛盾を当たり前と鵜呑みにしないことが大事だと感じた。また、アンケートの回収は思わぬ副産物をもたらしてくれた。同じ講義を受けても一人一人受け止め方が違うということに気付かせてくれた。次回は女性経営者で家事代行サービスを提供している方ということで注目している。将来、仕事と家庭（家事、育児、介護等）をどのようにして両立させたらよいのか分からず、不安である。女性ならではの話を聴きたい。

自分の好きなことを仕事に、即ち「仕事＝私事」にできていて理想的だなと思いました。これは、「will,can,must」の3領域のスイートスポットを仕事としてできているので、仕事を苦なくいつまでもこなしていくことができるからです。そんな都合のいいものは簡単には見つかりませんが、「ビジネスは矛盾の中に生まれる」「問題解決したら、それがビジネスとなる」ということなので、その視点の下自ら求め行けば仕事＝私事となるビジネスが見つかるように思えたので新たな考え方が開けました。起業したいけれどもハイリスクハイリターンというその性質に懸念を抱いていましたが、「取るリスクは具体的に計算できるが、取らないリスクは漠然とした大きな後悔として一生残る」というのを聞いてリスクに対する考え方が変わり、もっと果敢に挑戦して失敗も経験していこうと思いました。新しい考え方、現代のビジネスの在り方の一つ（スモールビジネス）を学べたので非常にためになりました。

集計作業を通じて、自分にとってとても衝撃的だった「私事」の話と「取るリスクと取らないリスク」の話はみんな心にとまっていた印象を受けた。個人的に一番印象的だったのは「WHYを大切にしよう」という話だった。一見無謀だと思われた山田氏の挑戦が形になったのは、数ある壁を「WHY」で切り抜けてきたからだという話は終盤にされたので、みんな集中力が切れていたのだと思うが、自分は一つの言葉も逃さないように聞く姿勢を保ちたいなと思った。